

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮幹雄	法人・事業所の特徴	坂井市の北部ののどかな田園地域に立地しており、同敷地内に通所介護・認知症対応型通所介護・認知症対応型共同生活介護を併設しています。 県民せいきょうの理念「あなたらしきいつまでも」を念頭に置き、事業所独自として「えがお」という理念を掲げています。利用者だけでなく、家族、もちろん職員も笑顔でいられたらいいねという思いです。坂井きらめきでは、通いサービスが中心ですが、訪問を頻回に行う事で一人暮らしの方のサポートをしたり、宿泊を組み入れることで家族の介護負担を軽減できる様に心がけています。地域とのつながりを大切に、気軽に困りごとを相談しに来て頂けるような事業所を目指します。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能型ホーム 坂井きらめきハウス	管理者	長谷川典子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	0人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	声にならない思いを1つでも多く読み取れるように、ご利用者との関わりの時間を大切にします。 日々のミーティングでの情報共有と共に、月1回の全体ミーティングで、繰り返し対応の統一の見直しを行っていきます。	生活歴を活かして、畑作業を積極的に取り入れたことでご利用者のやりがいや利用者同士の交流、楽しみへと繋がりました。 日々ご利用者の状態変化などの情報共有を行いました。対応にバラつきがありケアの統一が一部不十分でした。	「今はもうできない」とか「～したら悪い」など、諦めや遠慮もあると思います。そして不安や不満を抱えています。その思いをどう汲みとって実現できるかが大切だと思います。	畑作業を継続し、やりがいや自信へと繋げその人らしい過ごし方をサポートしていきます。 ICT化を進め、業務の効率化を図る事でご利用者との関わりの時間を大切にします。 担当職員が中心となり、「～したい」の実現に向けてアイデアを出し合い計画していきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ収束の際にはにこにこファミリーデーを再開します。 又、これまでと違った目線でファミリーデーを見直し具体化していきます。 来訪者に限らず、電話対応についても内容をしっかり聞き取り、さらに相手に好印象を与えられるように勉強会を行いマナーを身につけます	ご家族との交流行事は再開できませんでしたが、送迎時などに家族の困りごとを聞き出せるような関係性作りに務めました。 電話対応など、接遇マナーの勉強会を定期的に行うことが出来ず、苦手意識を克服出来ませんでした。	コロナの影響もあり、行事もないので中の様子が分かりません。 どの職員さんも笑顔で挨拶してください。とてもきもちが良いです。	SNSを活用し、日頃の活動の様子をご家族向けに発信していきます。 電話対応など苦手な部分の模擬練習を行い、接遇マナーを身につけ笑顔で対応します。
C. 事業所と地域のかかわり	人と人との直接的な交流が再開できない場合でも、地域の神社の草むしりやゴミ拾いなどの奉仕活動を行い、地域との関わりを大切にしていきます。	感染対策を行い、地域のサークルに向いて活動する事ができました。 地域の方の畑からコキア(ほうき草)を収穫させて頂き、ほうき作りやリース作りに活用しました。	地域のイベントも中止せざるを得なくきらめきさんとの交流の機会が作れなかったのを残念に思います。 コミュニティーセンターや保育園などとネットで繋がる事は出来ます。是非チャレンジして下さい。 地域の自主サークルに講師に来て頂き大変喜ばれています。交流を深める為、	サークルやサロンに出向き、介護予防体操やレクリエーションを行い交流を深め、気軽に困りごとを相談できるような関係作りに努めます。 ご利用者と一緒に地域のゴミ拾いや交通安全の啓蒙活動を行い地域との関わりを大切にします。

			積極的に参加されている姿勢が良いです。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご利用者、ご家族から得た情報を軒下マップ（本人を中心とした周囲との関係性を表した図）に記入し、地域とのつながりを全職員で共有したうえで、社会資源を有効に活用し、本人の暮らしを支えています。	ご利用者やご家族からこれまでの暮らしや地域との関わりについての聞き取りは行えていても、軒下マップの活用が出来ず、情報共有が不十分でした。地域の方に協力を得ながら支援ができたケースと、地域との関わりが見えず、介入する事ができないケースがありました。	コロナ禍で大変だと思いますが、市や民生委員さんと協力して頑張ってもらいたいと思います。地域の暮らしを一番身近に感じるのは、近くの畑で今何を作っているのかを知り、自分の過去を思い出す事、そしてそれを話す事だと思います。	ご利用者のこれまでの暮らし方を理解し、ご利用者にとっての社会資源とは何かを全職員がしっかりと理解したうえで、その人らしく在宅生活が送れるようにサポートしていきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所の定例報告に加え、年間の会議の議題を事前に計画し、地域の困りごとや相談などについても気軽に意見を出し合える会議を目指します。	コロナ禍で年間開催予定の半分は開催自粛となり書面確認のみとなりました。	コロナ禍でもありなかなか地域交流は難しかったと思いますが、近い所にあがりながら、まだ遠い存在であるように感じてしまいます。せっかく優秀なスタッフが揃っているのに、もっと気軽に相談などに行けないものかと思いません。	職員も会議に参加し、地域の方と気軽に意見交換し合える関係性作りに努めます。ご家族への参加の案内を積極的に行っていき、ご家族と地域との交流の場となるように働きかけていきます。
F. 事業所の防災・災害対策	日中、夜間両方を想定し、役割分担を明確にしたうえで訓練を行います。	今年度の防災訓練は、昨年同様事業所の職員と利用者様のみで行われました。	実際に災害が起きた場合、ご利用者を誘導するのも大変だと思います。いざという時に備えて、訓練をお願いします。	定期的に災害時の備蓄の確認を行い、例年同様、日中、夜間両方を想定しての訓練を行います。